

日本政治学会 会報

The JPSA News

No. 2

October 1981

IPSA東京円卓会議を企画して

内山秀夫

この会議は、1982年8月に、リオ・デ・ジャネイロで開催予定の第12回IPSA世界大会の主要テーマ「新国際秩序の探究」の準備会議として性格づけられています。しかし、本会議が東京で開催される、ということもまた、企画委員会は重大なことと考えました。つまり、政治発展と国際秩序の問題を構想した場合、そこにはわれわれの経験が反省をこめて反映されることを期待したわけです。

われわれの経験は、戦後の民主化として始まります。それは、戦火によって壊滅した生活環境の再建を至上とし、それに非軍事化と経済再建が重大な課題としてからみついていたはずでした。そして、展開され発展したわれわれの「現在」は、果してわれわれが希求した生活のレベルと質を実現したのでしょうか。

国家目標は、唯GNPを最大化することに確定され、現実政策的な一元的政治の世界をつくりあげてしまいました。つまり、この政治の原理は、日本人の幸福追求のありうべき限界を超えてしまったかのような程度にまで推進する、自己発展の論理を内在化してしまったのではないのでしょうか。公害問題や環境問題は、この原理によって作りだされた歪みの中で噴出しました。

他方、この原理の展開によって無差別に行なわれた経済進出は、アジア諸国に多大の警戒姿勢、強い反日感情を生みだしました。また非軍事化にしても、対米関係において防衛力増大を抑制するミニマムな原理となりえても、それを発条として創造的な平和の理念をつくりだし、世界を先導するにたる積極姿勢を構築することはできませんでした。日本の戦後は、一種の国家中心主義的な自己充足を目的とした、と言えます。

ここに発見できる「反人間性」はもちろん、開発主義を軸とする高度産業国家に通有の問題です。したがって、経済中心的な開発の反人間性を除去することを、政治発展と新しい国際秩序としてとらえなおす試み、つまり政

治が経済に内在する論理を抑制する、という意味で新しいデザインは描けないだろうか、と考えました。

そこで第1セッションでは、70年代以降、国民大の目標としての“豊かさ”の価値が疑問視され、かつての伝統近代の二元論に立った進歩史観を突き崩したところで、人間の存在を個別的にも類的にも拡充しようとする流れの中に、新しい人間の発展可能性を政治発展ととらえようとする試みを期待しました。

第2セッションは、国家を問題にします。というのは、国家は指導と国益とのかかわりで目に見えてくるからです。利益の優先順位、利益の表出、集合、そして民衆の動員と反対などの多様で多元的な位相を深く考えることが必要でしょう。

第3セッションは、国家の存在の最も顕示的な側面である軍事化の問題です。これには国際社会における分権化の側面もありますが、それが果して国際秩序に新しい地平をひらくのかどうかの問題です。

第4セッションでは、国家集合の問題を想定しました。国家間の距離は運輸通信の技術革新によってせばまりましたが、真の意味での人間世界形成の前提としての相互依存関係を探って見たいのです。

第5セッションは、むしろ結論への摸索として設定されました。独立と提携という永遠のアポリアに現代のわれわれがどう取り組むかについて示唆がえられればと願っています。

企画委員会は、こうしたすべての議論がイデオロギーや党派の主張としてなされるのではなく、また現実主義と理想主義、性善説と性悪説などの相剋としてでもなく、各自が人類の一員として共通の課題をになっている点に英知を結集し、実りある討論が展開されることを切望しております。升味企画委員長が渡米中のため、私が代わりに筆を執らせて頂きました。

学 会 ニ ュ ー ス

新理事選出さる

投票率 48.7% に

次期理事のうち会員からの直接選挙によって選ばれる候補者を決める選挙は、6月30日締めきられ、7月11日選挙管理委員会によって開票の結果、次の20会員が当選した。

理事候補者当選人氏名 (五十音順、敬称略)

阿部 齊	飯坂良明	今中比呂志	内田 満
内山秀夫	岡本 宏	神島二郎	河合秀和
小林丈児	白鳥 令	高島通敏	田口富久治
田中 浩	福井英雄	堀江 湛	増島 宏
松下圭一	升味準之輔	三宅一郎	山口 定

選出された理事候補者は、次の総会(1982年3月)によって承認された後、正式に次期理事(任期1982年10月-1984年9月)に就任することになる。なお、神島会員は次期理事への就任を辞退している。また、選挙管理委員会から発表された今回の選挙の主なデータは、以下の通りである。

有権者数	778人	投票総数	379票		
有効記名投票数	3,702票	投票率	48.7%		
当選者の最高得票数	97票	参考・投票率	()		
当選者の最低得票数	42票			第1回	40.4%
30票以上の得票者数	32人			第2回	42.5%

選出された理事候補者は、9月26日、京都で推薦理事候補者の選考会を開き協議した。その結果は、候補とされた会員の承諾をまって、次期総会で報告される。

1981年度研究会

プログラムまとまる

1981年度の研究会(1982年3月、中央大学)のプログラムがほぼまとまり、9月26日の理事会で阿部斉企画委員長より報告された。その内容は、以下の通り。

第1日 3月27日(土)

研究会 (午前)

共通論題 A 「1980年同日選挙の分析」

司会 三宅一郎 (同志社大学)

報告 札幌グループ、仙台グループ、東京グループA・B、京都グループ、各1名

研究会 (午後)

分科会 A 日本の国家思想

司会 松本三之介 (東京大学)

報告 山室 信一 (東京大学)

池田 元 (筑波大学)

討論 飯田 泰三 (法政大学) 他1名

分科会 B 農業利益と政治

司会 富田 信男 (明治大学)

報告 宮崎 隆次 (岩手大学)

橋本 信之 (関西学院大学)

討論 2名 (交渉中)

分科会 C トランズナショナルとサブナショナル

司会 鴨 武彦 (早稲田大学)

報告 馬場 伸也 (津田塾大学)

大隈 宏 (成城大学)

討論 加藤 俊作 (関東学院大学)

田中 俊郎 (慶応大学)

第2日 3月28日(日)

研究会 (午前)

共通論題 B 「日本の政策決定過程をめぐって」

司会 阿部 齊 (筑波大学)

報告 福井 治弘 (カリフォルニア大学)

佐藤 英夫 (ユール大学) 他2名

研究会 (午後)

分科会 D 17世紀における政治と宗教

司会 半沢 孝暦 (東京都立大学)

報告 加藤 節 (成蹊大学)

塩川 徹也 (東京大学)

討論 友岡 敏明 (神戸学院大学)

淵 倫彦 (東京都立大学)

分科会 E 政治と教育

司会 岡村 忠夫 (法政大学)

報告 河田 潤一 (甲南大学)

山田 格 (関西学院大学)

討論 中村 紀一 (千葉大学)

岩瀬 庸理 (筑波大学)

分科会 F 占領の国際比較

司会 天川 晃 (横浜国立大学)

報告 袖井林二郎 (法政大学)

真鍋 俊二 (関西大学)

討論 五十嵐武士 (東京大学)

崔 相竜 (高麗大学)

なお、第1日の研究会終了後、懇親会が開かれる予定である。

学 会 ニ ュ ー ス

1980年度決算承認される

9月26日に京都市・京大会館において行われた理事会において川口理事より、1980年度決算について監査をおこない承認した旨報告があった。

予算と決算の費目別内訳は別表のとおりである。

予備費支出内訳	
研究会開催費追加	89,000
円卓会議開催の通信印刷費	60,000
事務局経費(電話代)追加	20,095
事務局移転費	13,054
計	182,149

別途会計(1)名簿作成積立金	
(収入)	
前年度より繰越し	277,155
本年度積立金	100,000
利息	3,327
(支出)	
名簿印刷費	208,000
名簿作成経費	64,280
差引残高	108,202
別途会計(2)IPSA関係積立金	
(収入)	
前年度より繰越し	1,473
本年度積立金	20,000
(支出)	
	0
差引残高	21,473

1980年度 予算・決算			
	項 目	予算(金額円)	決算(金額円)
収入	1. 前年度よりの繰越し	2,357,762	2,357,762
	2. 会 費 収 入	1,600,000	1,615,540
	3. 雑 収 入	0	89,922
	4. 年報特別基金返済	0	250,000
	収 入 合 計	3,957,762	4,313,224
支出	1. 研 究 会 開 催 費	550,000	550,000
	研究会準備金	400,000	400,000
	報告者謝礼	150,000	150,000
	2. 委 員 会 経 費	225,000	205,000
	年報委員会	45,000	45,000
	企画委員会	85,000	65,000
	文献委員会	55,000	55,000
	渉外委員会	40,000	40,000
	選挙管理委員会	0	0
	3. 理 事 会 経 費	40,000	35,819
4. 学 会 分 担 金 (IPSA)	170,000	184,011	
5. 事 務 局 経 費	理事長通信費	20,000	20,000
	運 営 費	30,000	30,000
	人 件 費	140,000	173,540
	経 常 費	200,000	201,051
6. 名 簿 作 成 積 立 金	100,000	100,000	
7. IPSA関係積立金	20,000	20,000	
8. IPSA R.T. 特別基金	1,000,000	1,000,000	
9. 年 報 特 別 基 金	250,000	250,000	
10. 予 備 費	1,212,762	182,149	
	支 出 合 計	3,957,762	2,951,570
	収 支 差 引	0	1,361,654

年報1979

『政治学の基礎概念』

刊行される

1979年度の日本政治学会年報(年報委員長・松下圭一)は、9月30日発刊された。その主な内容は、6ページに記載されている。

なお、1980年度以降の年報の刊行計画は、岩波書店と協議の結果、以下のように新しく決められた。

	タイトル	発行予定
年報	1980「政治学と隣接科学」 (年報委員長・脇圭平)	1982・3
年報	1981「現代国家の位相と理論」 (年報委員長・内山秀夫)	1982・9
年報	1982「近代日本の国家像」 (年報委員長・松本三之介)	1983・3
年報	1983「政策決定の諸問題」 (年報委員長・山川雄巳)	1983・9

これに伴い、1982年度年報よりふたたび文部省の学術出版物刊行助成金を申請すべく努力することになっている。

I P S A TOKYO ROUND TABLE 1982

「I P S A東京ラウンド・テーブル」

プログラムほぼ決まる。

企画委員会を中心に計画が練られていた「I P S A東京ラウンド・テーブル」のプログラムがほぼ決まり、9月26日の常任委員会で決定された。その内容は、次の通りである。(その後確定した分を含む)

『アジア・太平洋における政治発展と新国際経済秩序』

1. 基調講演

K.W.Deutsch (アメリカ)、Soedjatmoko (インドネシア)、福田敏一 (日本)。ほか討論者2名(日本—交渉中)

2. セッション

○第1セッション「政治発展の新しいデザインを求めて」

司会 J.Wiatr (ポーランド)、綿貫謙治 (日本)

報告 J.Linz (アメリカ)、D.S.Rathore (インド)、石田 雄 (日本)

討論 山口 定 (日本)、大塚秀夫 (日本)

○第2セッション「政治指導と国益」

司会 R.David (フィリピン)、矢野 暢 (日本)

報告 B.Anderson (アメリカ)、L.Dhiravegin (タイ)、宇野重昭 (日本)

討論 岡部達味 (日本)、加茂雄三 (日本)

○第3セッション「軍事力の拡散と新国際経済秩序」

司会 D.Senghaas (西ドイツ)、宮里政玄 (日本)

報告 R.Luckham (イギリス)、L.T.Ghee (マレーシア)、B.Hahn (韓国)

討論 山本 満 (日本)、中村研一 (日本)

○第4セッション「国家間の政治的・経済的依存関係」

司会 Alfian (インドネシア)、馬場伸也 (日本)

報告 S.J.Park (西ドイツ)、K.Theeravit (タイ)、G.Wang (オーストラリア)

討論 進藤栄一 (日本)、鈴木佑司 (日本)

○第5セッション「新しい国際秩序を求めて」

司会 H.C.Chan (シンガポール)、坂本義和 (日本)

報告 R.A.Falk (アメリカ)、S.Brucan (ルーマニア—交渉中)、1名未定

討論 武者小路公秀 (日本)、高柳先男 (日本)

3. その他の円卓会議構成者

C.Mendes (ブラジル)、G.H.Shakhnazarov (ソ

連)、R.Merritt (アメリカ)、C.A.Perumal (インド)、J.Hayward (イギリス)、F.Kjellberg (ノルウェー)、D.Frei (スイス)、E.Özbudun (トルコ)、K.H.Röder (東ドイツ)、R.Kothari (インド)、J.Meisel (カナダ)、J.E.Trent (カナダ)、A.Arian (イスラエル)、A.Bibic (ユーゴスラビア)、S.Passigli (イタリア)、S.Hurtig (フランス)、J.Portillo (ベネズエラ)、G.O'Donnell (ブラジル)、1名未定(中国—交渉中)

日本政治学会 I P S A円卓会議

基金、募金目標額を突破する

I P S A東京ラウンド・テーブルのための会員募金は、その後も順調に進み、9月25日現在で応募者数延べ303名、募金の払込み額は525万5千円に達し、目標額500万円をついに突破した。先の会報に掲載以後、募金に応じられた会員のお名前は、6ページに掲載させて頂いた。

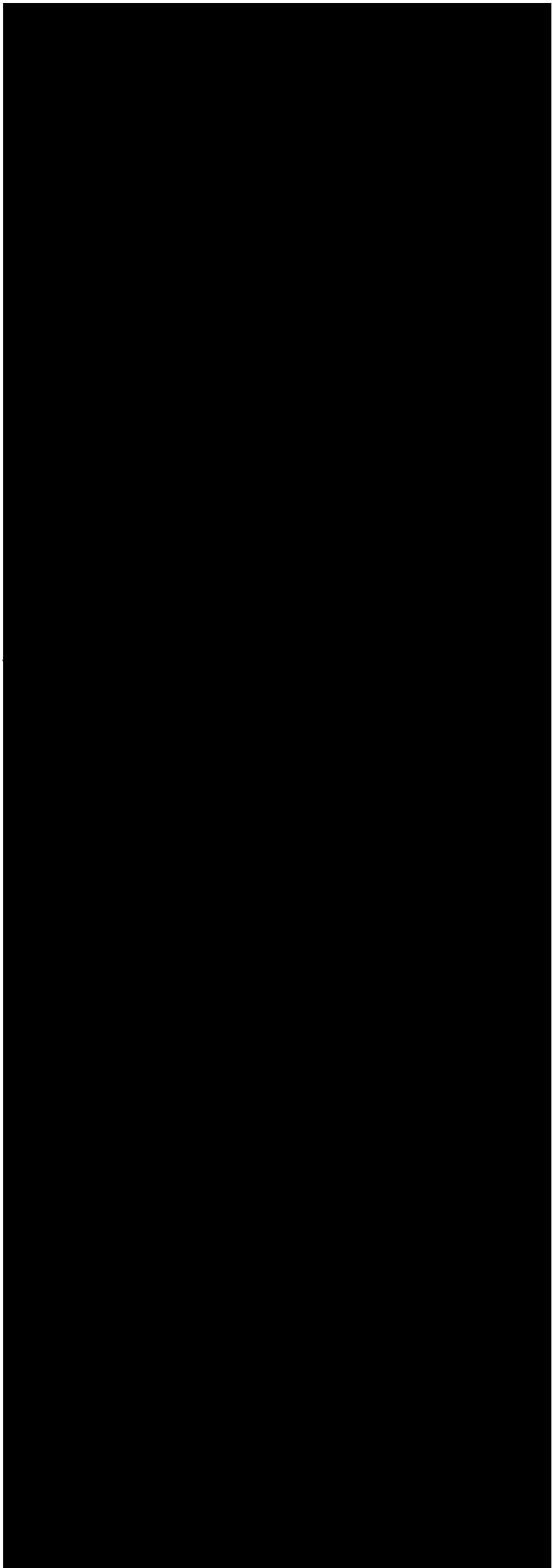
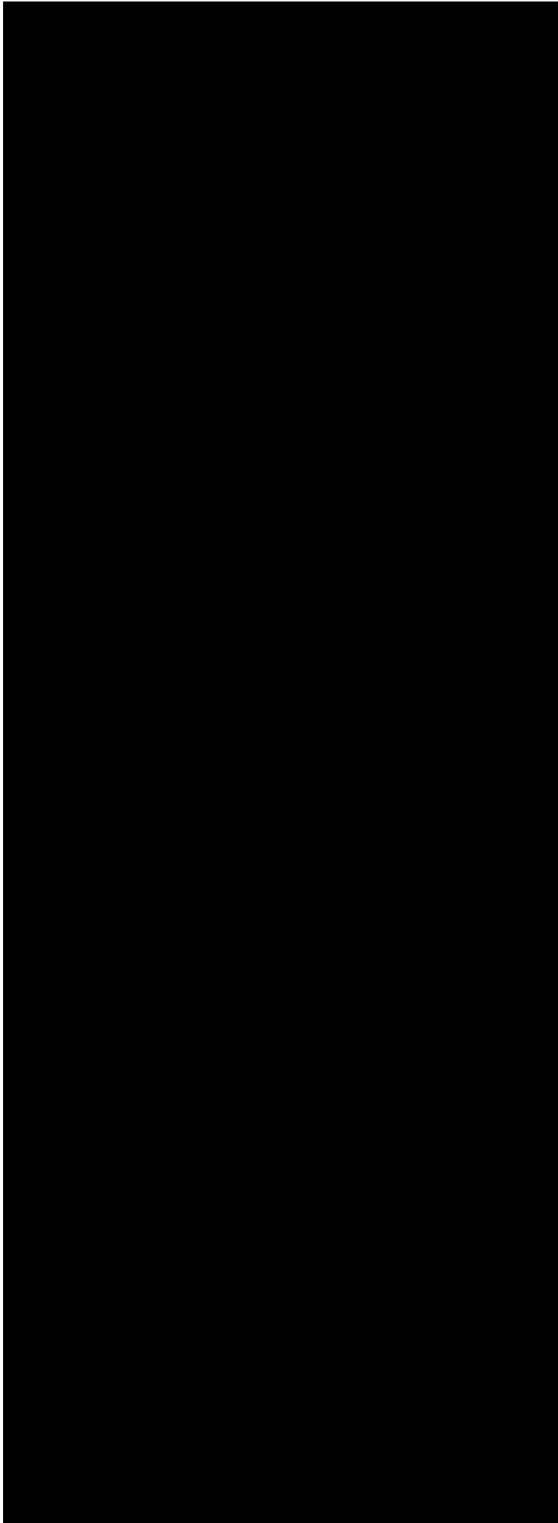
上掲のように、日本政治学会 I P S A円卓会議基金はついに目標額の500万円を突破いたしました。これはひとえに会員のみならずの日本ではじめての I P S A円卓会議を成功させようという熱意と御厚志の賜物にほかなりません。ここに組織委員会および理事会を代表し、会報の紙面をかりて、厚く御礼を申し上げます。来たる1982年3月、円卓会議が開催されました際には、是非会場においで頂き、円卓会議を傍聴(会員無料)して頂きたく存じます。また、御抛金頂いた方には、レセプションの御案内を差し上げるようになっております。レセプションは有料でございますが、何卒御出席下さり、はるばる外国から参加された方々と御歓談頂ければ幸いに存じます。

1981年9月

国際ラウンド・テーブル組織委員長 辻 清明
日本政治学会理事長 神島二郎

日本政治学会会員各位

会 員 異 動



I P S A 円卓会議基金

募金者名簿 (1981. 4. 10~9. 25)

相沢 久、芦沢宏生、足立忠夫、荒木俊夫、石川一雄、石田 雄、石原征明、市川太一、伊手健一、伊東孝之、井上 尹、今村都南雄、岩井昭二、岩重政敏、犬童一男、臼井久和、梅川正美、大内 穂、太田雅夫、大野節子、大畑篤四郎、大原光憲、岡倉古志郎、岡崎長一郎、緒方貞子、岡本幸治、岡村忠夫、小川晃一、金子 勝、河中二講、北岡伸一、北西 允、木村宏恒、金 雲泰、黒沢文貴、黄 昭堂、公平慎策、児玉 誠、後藤米夫、小西厚子、五味俊樹、蔡 啓清、最勝寺隼人、坂井秀夫、坂本孝治郎、阪本仁作、坂本義和、佐々木毅、佐藤 竺、酒田正敏、柴田徳文、柴田平三郎、嶋崎 譲、清水慶之、下斗米伸夫、杉山逸男、鈴木幸寿、鈴木隆史、鈴木 寛、鷲見誠一、十亀昭雄、柚 正夫、高木鉦作、高村忠成、高柳先男、田口 晃、竹前栄治、田中誠一、辻 清明、津森立巳、丁 得圭、得永新太郎、土倉完爾、富田容甫、中木康夫、中島和子、中島昭三、永瀬国男、中村義和、西尾孝明、西尾 勝、新田邦夫、橋川文三、林 明博、半澤孝麿、坂野正高、平井友義、平田好成、福井英雄、福嶋正徳、福寿幸男、福田茂夫、藤枝正司、藤原保信、古城利明、古矢 旬、堀 真清、堀江 湛、本田 弘、前田康博、前野 良、増島 宏、松沢弘陽、真鍋俊二、丸山真男、三浦信行、水田珠枝、見延勇一、三辺博之、宮里政玄、宮本盛太郎、村松岐夫、本橋 正、森 利一、森尾忠憲、森田嘉一、森本哲夫、山田公平、山本清幸、矢野 暢、吉田義康、吉村健蔵、吉村 正
(五十音順)

理事会記録から

〔理事会〕—— 1981年度第1回 1981年9月26日
京大会館

- 会費滞納者について規約第8条(2年間会費滞納による除名処分)をどのように具体的に執行すべきかを協議した結果、今後は、毎年の年度末に機械的に執行すべきことに決定した。また、会費滞納者が新会員として加入申請した場合も、滞納分の会費を支払うこととされた。ただし、今年度にかぎり、過去2年間(79,80年度)の会費を納入すれば、会員資格の復活を認めることとなった。
- 文部省科学研究費補助金審査委員(第1段)について学術会議に推薦する問題につき協議の結果、最近の年報・企画・文献委員長の中から理事長が推薦

し、理事会に報告することに決定した。(この決定にもとづき、阿部 斉、三宅一郎の両理事が、理事長より学術会議に推薦された。両理事のうちのどちらかが、学術会議により文部省に推薦されることとなっている。)

事務局から

I P S A世界大会(1982年8月、リオ・デ・ジャネイロ、プログラム会報前号参照)に参加を希望される会員は、阪急旅行社・支店、外人旅行部(Tel. 03-508-0129、担当 中川)で一括して取扱うことになりました。前にパリグ航空に申込みされた方も、念のため御連絡し直して頂くようお願いいたします。何人かまともまれば、航空運賃の割引きの可能性があるとのことです。

年報 政治学 1979

『政治学の基礎概念』

(岩波書店刊、3,300円)

I 主体

市民(西尾孝司) 自由(三辺博之) 自治(西尾 勝) 統治(成沢 光) 共和(寺尾方孝)

II 構造

文化(内山秀夫) 意識(岡村忠夫) 階級(江川 潤) 組織(岡沢憲美) 政府(鴨 武彦)

III 機能

行政(大原光憲) 政策(大森 彌) 情報(猪口 孝) 福祉(西尾孝明) 開発(大嶽秀夫)

IV 統合

権力(松下圭一) 闘争(高柳先男) 変動(山川雄巳) 憲法(安 世舟) 政治(河合秀和)

学会展望—— 1978年——

学会報告

1981年10月26日

編集 日本政治学会会報編集委員会
(代表 高 島 通 敏)
発行 日本政治学会事務局
〒171 東京都豊島区西池袋3丁目
立教大学法学部研究室
TEL 03(985)2561